

『大学生活を振り返って』

鶴田 陽菜 (No. 4401)

私は、大学時代は社会福祉士国家資格取得のための勉強をしていました。勉強を重ねても分からないことが山積みで、それを一つ一つかみ砕きながら理解していくことがとても大変でした。

勉強をしていくうちに、知識は身につくものの、実習で実際の現場を目の当たりにした際は、思っていた以上に深刻な現状があるということや、学んだことを活かせなかった自分の不甲斐なさを痛感しました。そのため、私は社会に出てソーシャルワーカーとして人の役に立てるのだろうか、どれだけ多くの困っている人々と出会っていくのかと、期待というよりは正直不安な気持ちで過ごしていたことの方が多かったです。

しかし、その不安があったからこそ、人一倍知識を増やさなければならないと気づき、学ぶことに意欲的になれたのだと感じています。

大学時代は、こども食堂や障害者施設のイベントのボランティアなどに参加していました。実際の現場を見たり利用者の方と関わったりする時間は、勉強だけでは得ることができない数多くのことを学ぶことができました。コミュニケーションの取り方、言語では伝えられない思いを、非言語から感じ取る必要性があることなどが特に勉強になり、その経験は現在仕事をしているうえで活きていると感じています。

そのため、もっといろんな活動に参加し、さらに多くのことを吸収しておけばよかったと強く感じています。

私は、失敗することへの不安から、活動に参加することをためらってしまうことが何度かありました。しかし、大学時代は、自分のために時間を費やせる貴重な時期だと今、とても実感しています。

その時期に多くのことを学び、失敗もしていくことでより成長できていたのではないかと、ためらった自分自身に後悔しています。自分の興味があることを好きなだけ学べる大学生の時期に、失敗を恐れずためらわずにまずは挑戦してほしいと思います。

